(3) 病院における院内デザイナー配置に関する経営者の評価

川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科　○森　絵美
川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科　合田　喜賢
川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科　平野　聖
川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科　真鍋　克己
京都橘大学現代ビジネス学部都市環境デザイン学科　松本　正富

【要　旨】

本研究は院内デザイナーを配置する医療機関の経営責任者の評価から，院内デザイナー配置の有用性や意義を明らかにすることを目的とした.

院内デザイナーを配置する医療機関の経営責任者を対象に半構造化インタビューを実施し，M-GTA（修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）を用いて分析した結果，8カテゴリーと24の概念が抽出された.

医療機関で働く院内デザイナーは，デザインスキルに加え1)【専門以外に必要な能力】として高いコミュニケーション能力が必須であること，少人数部署への配属から2)【院内デザイナーの能力への付加価値】が求められること，3)【院内職員であることのメリット】があり4)【業務効率の向上】に良い影響をもたらしていること，その結果は，5)【医療機関内での肯定的認識】や6)【必要な職種であるという認識】につながっていること，7)【経営に資する働き】や8)【外部評価への貢献】に対して有益であることを明らかにした.

本研究結果より，院内デザイナーに対して経営者の否定的な評価は見られず，利用者と医療従事者の双方にとって有益に働く存在であることが確認できた.